



一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団

ANNUAL REPORT

事業報告書 **TAKETOMIJIMA**
REGIONAL
FOUNDATION

2019 年度



Contents

目 次

ご挨拶	P 03
竹富島	P 04
決算概要	P 05～06
入島料収受実績	P 07
島内賛同事業所一覧	P 08
寄付者一覧	P 09
取り組み経緯	P 10～11
活動報告（地域計画概要）	P 12
（防風林の植林）	P 13
（耕作放棄地の再生）	P 14
（井戸の現状調査）	P 15
（海浜清掃）	P 16
（ゴミ箱問題の解決）	P 17
（伝統的建築技術の継承）	P 18
広報事業	P 19～26
組織概要	P 27
寄付のお願い	P 28

Greeting

ご挨拶

2019年度年次報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

当財団の理念の契機は過疎化が進行していた昭和30年代まで遡ります。小さな島の大地を何とか生かそうと先人は苦労を重ねてきました。そして竹富島の美しさに魅了される人が増えはじめた本土復帰の頃より、訪れる方々から入島料をお預かりして、島の美しい景観を取り戻したいとの声が聞かれるようになりました。残念ながら、この計画は時節と折り合わず断念せざるを得ませんでしたが、それによって島を生かすための先進的な考え方方が土台として築かれていたことを、私たちは決して忘れてはおりません。

島の移り変わりがスピードアップしたと感じられたのは、平成の世を迎えてから。八重山観光が脚光を浴び多くの方が島を訪れ、この余波によって250人まで減少した島内人口も徐々に増加し、ここ数年は、360人ほどで推移するまでにいたりました。しかし、暮らしの延長線上での良さが魅力の竹富島観光は、マスツーリズムの影響を大きく受けるようになりました。その結果、自然環境や生活環境に大きな変化が生じてくるようになりました。

暮らしと観光が乖離する違和感をどのようにしたら解決できるかと、地縁団体法人竹富公民館は再び議論を始め、平成26年度定期総会において、「島ぐるみで取り組む」と決議しました。それから足掛け5年、積年の思いが、竹富島地域自然資産財団に結実されています。

当財団には、私たちや先人の思いばかりでなく、関連省庁をはじめ、竹富町、竹富島地域自然資産運営協議会、そして訪れる皆様すべての思いが込められています。私たには、自然環境保全事業や自然環境トラスト活動を通じて島を再生し、次世代へバトンを繋げるという大きなシクブン（役割）がございます。

これからは、竹富島地域自然資産地域計画に則り、竹富島を訪れる皆様より協力金をお預かりし、この協力金を原資に島の再生を図ってまいります。何卒ご理解ご協力を賜わりますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

一般財団法人竹富島地域自然資産財団

理事長 上勢頭 篤

Taketomijima



竹富島

竹富島は、東京から南西に約2000キロ、沖縄本島からも約400キロ離れた場所にある周囲9.2km、人口わずか360名程度の小さな小さな島です。沖縄の原風景が色濃く残る集落に美しいビーチを求めて年間約50万人もの観光客が訪れており、島では近年、オーバーユースや観光開発など多くの問題に頭を悩ませています。そこで私たちは、これらの問題の解決に望むべく、2019年5月 一般財団法人 竹富島地域自然資産財団を立ち上げました。当財団では来島者から入島料を募ることで島の保全活動や財団運営を行っています。

Financial

2019年度（初年度）の入島料全体に対する
事業費の割合が非常に低い状況です。
初年度ということもあり管理費の支出を優先とした活動となりました。
初年度の決算を踏まえ、次年度は積極的な保全活動につながる
予算立て、入島料の収受率UPを目指します。

決算概要

貸借対照表

2020年3月31日現在

I 資産の部		II 負債の部	
科目	金額		金額
	円		円
流動資産		流動負債	
現金預金	3,929,618	未払金	49,171
立替金	624	未払費用	423,016
流動資産合計	3,930,242	預り金	110,304
固定資産		未払法人税等	58,200
基本財産	3,000,000	流動負債合計	640,691
基本財産合計	3,000,000	負債の部合計	640,691
固定資産合計	3,000,000	III 正味財産の部	
		指定正味財産	
		拠出金	3,000,000
		指定正味財産合計	3,000,000
		(うち基本財産への充当額)	(3,000,000)
		一般正味財産	3,289,551
		一般正味財産合計	3,289,551
		正味財産合計	6,289,551
資産の部合計	6,930,242	負債及び正味財産の部合計	6,930,242

Financial

収支報告書

自 令 和 1 年 5 月 30 日 至 令 和 2 年 3 月 31 日

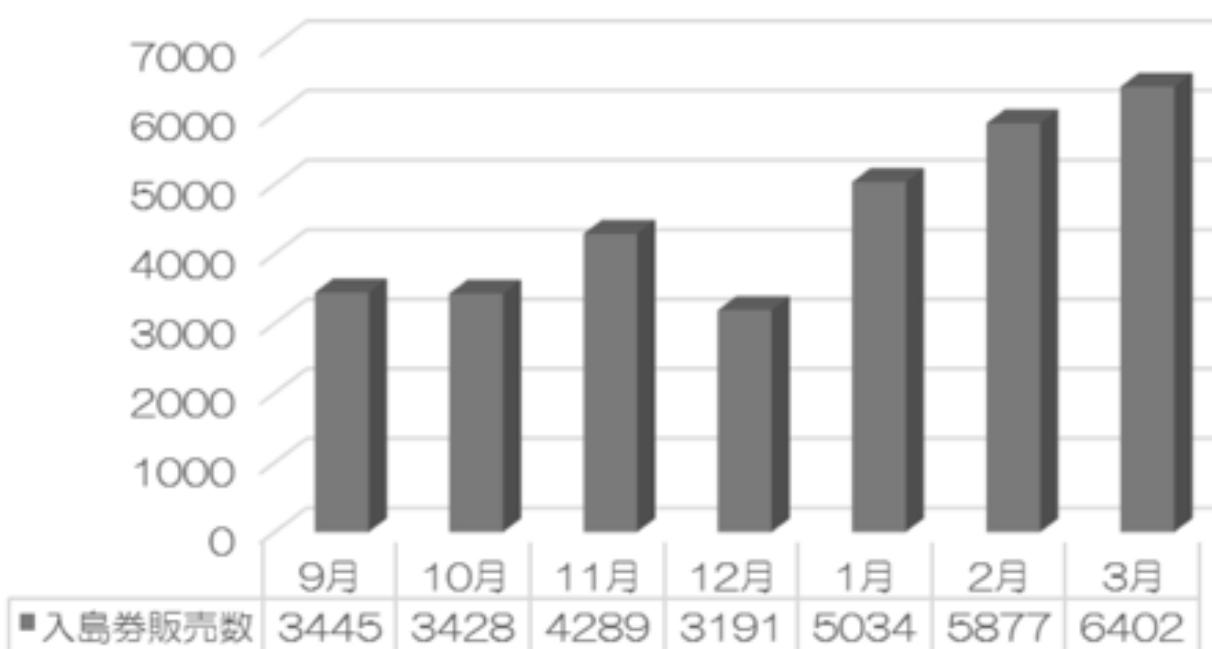
科 目		金 額	
			円
I 経常収益			
事業収益			
入島料		9,617,629	9,617,629
受取寄付金			
トラスト寄付金		834,000	
一般寄付金		36,800	870,800
雑収入			
受取利息		13	13
経常収益計			10,488,442
II 経常費用			
事業費			
(1) 人件費			
給与賃金		270,300	
人件費計			270,300
(2) その他経費			
外注費		20,900	
消耗品費		187,921	
旅費交通費		12,424	
租税公課		4,350	
通信費		84	
新聞図書費		2,618	
支払手数料		115	
雑費		48,390	
その他経費計			276,802
事業費計			547,102
管理費			
(1) 人件費			
給与賃金		2,915,993	
賞与		180,400	
法定福利費		369,510	
福利厚生費		7,169	
人件費計			3,473,072
(2) その他経費			
事務用消耗品費		230,948	
消耗品費		385,492	
水道光熱費		31,180	
旅費交通費		34,286	
支払手数料		381,517	
租税公課		115,280	
接待交際費		18,534	
通信費		144,630	
広告宣伝費		861,264	
会議費		24,558	
地代家賃		234,210	
賃借料		524,300	
雑費		134,318	
その他経費計			3,120,517
管理費計			6,593,589
経常費用計			7,140,691
当期経常増減額			3,347,751
税引前当期一般正味財産増減額			3,347,751
法人税等			58,200
当期一般正味財産増減額			3,289,551
一般正味財産期首残高			0
一般正味財産期末残高			3,289,551

Financial

入島料収受実績

	入域観光客数 (町民割除く)	協力金 (円)	収受率	寄付 (円)	備考
9月	38,014	1,033,500	9%	511,000	・収受開始セレモニー（収受開始後、3日間は平時の2~3倍） ・台風による欠航等の影響（5日間）
10月	43,765	1,028,400	8%	12,000	・種子取祭による来島者増加、手売り販売 ・台風の影響（1日間）
11月	40,675	1,286,700	11%	0	・1週間の手売り販売の実施
12月	30,333	957,300	11%	0	・月末（25日より手売り販売開始）
1月	36,046	1,510,200	14%	0	・5日間を除く全ての日で手売り販売実施
2月	38,110	1,763,100	15%	36,800	・事業者への販売分を含む
3月	36,469	1,861,800	18%	0	・事業者への販売分を含む

入島券販売数



Support

財団の活動は、入島料や寄付を頂いた方々に支えられています。
また、入島料の収受は島内企業や団体のご協力により行われています。
皆様の温かいご支援に対し、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

島内賛同事業所一覧

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA
アトリエ 五香屋	民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにや
Bar 月灯り	新田観光	民宿 新田荘	(有) 竹富島交通
喜宝院蒐集館	NPOたきどうん	丸ハレンタサイクル	レンタサイクル竹富
ぽちサイクル	嶺本レンタサイクル	南西観光株式会社	内盛商店
海風～シューカジ～	若竹丸	HIMAWARI WORKS (株)	たきどうん
イナフク	とも倉	縄文や	アイランド
まうていや	くちゅ&パラダイスカフェ	竹富民芸館	染織工房 Boo-House
たるりや	そば処 竹の子	食事処 やらぼ	ガーデンあさひ
ひまわり	民芸喫茶マキ	HaaYa nagomi-café	やまもり食堂
パーラーターミ	民宿 なかもり荘	民宿 大浜荘	民宿 マキ荘
民宿 松竹荘	一日一組の宿 すかぶら	やど家 たけの子	cago

※島内賛同事業所とは説明会等に参加して賛同書を頂けた事業所を指す

2020.03.31.現在

入島券販売取扱事業所一覧

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA
アトリエ 五香屋	民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにや
Bar 月灯り	新田観光	民宿 新田荘	星のや竹富島
アイランド			

2020.03.31.現在

Support

寄付者一覧

スギウラ マサノリ 様	カジ ヒロシ 様
ハラダ マリコ 様	ナカニシ タケユキ 様
シミズ コウジ 様	オオハマ シンイチロウ 様
ミズノ カゲユキ 様	

物品寄付者一覧

サカイ マサユキ 様	イノマタ ヒトミ 様
タナカ アイコ 様	カメイ ヤスノブ 様
タカナ ヒロコ 様	ウチモリ ヨシエ 様
ウチモリ アサカ 様	オオヤマ ミツコ 様
タケトミカンコウセンター 様	アヨイ 様
タジマ コウタロウ 様	ノハラ ケン 様
ウエセド アツシ 様	オオヤマ エイイチ 様
マエモト リュウイチ 様	シマナカ ヨシノブ 様
タナカ コウジ 様	オオハマ シンイチロウ 様
ミズノ カゲユキ 様	イチノセ タケハル 様

※物品寄付とは返礼品や事務所備品、保全活動に関わる機材等の寄付を指す

Schedule

当財団の活動は「地域自然資産法」に基づき竹富町が作成した
「竹富島地域自然資産地域計画」に沿って行われています。

2019年度取り組み経緯

19年5月30日	一般財団法人 竹富島地域自然資産財団 設立
6月11日	【財団】令和元年度 評議員会
8月7日	第1回 竹富島地域自然資産運営協議会の開催 ・地域計画（案）の改訂確認
8月11日	【町・財団】住民説明会 ・取り組み経緯、地域計画の内容等の説明
8月中旬～下旬	【町】地域計画の最終チェック・策定
	【財団】各種準備 ・島内外での周知・広報活動 (島内事業者へのチラシ・ポスター配布、港や空港でのぼり設置等) ・返礼品、ゴミ箱の作成、設置 ・券売機の準備、設置 等
8月21日	【町・財団】記者発表 ・事業経緯、事業内容等の説明 ・覚書調印式
8月30日	【財団】テレビ朝日取材対応
9月1日	★入域料の收受開始 収受開始セレモニーの開催 【財団】八重山毎日新聞取材対応
9月1日～10月3日	【財団】石垣港にて写真展の開催～100年後も残したい竹富島の暮らし～
9月12日	【財団】第3回定例理事会
10月5日	【財団】第4回定例理事会
10月8日	【財団】八重山日報社取材対応
10月9日	【町】山梨県山梨市議会視察対応
10月10日	【財団】NHK取材対応
10月12日	【財団】島内の月例会にて、財団の活動を紹介する季刊誌を配布(計150部)
10月26日	【財団】島内事業者との連携に向けた財団内の話し合い
11月2・3日	【財団】八重山日報社取材対応
11月13日	【財団】第5回定例理事会 (入島券名決定：「うつぐみチケット」)
11月14日	【町】長崎県小値賀町視察対応 (この他にも、各地からの問合せ等の対応)
11月26日	【財団】日本経済新聞社取材対応

Schedule

11月27日	【財団】臨時理事会
11月29日	【竹富公民館】「竹富島の観光を考える会議」の開催 【財団】観光事業者へのアンケート調査の実施 (観光業の実態把握、資産法の取り組みに対する意見等)
12月5日	第2回 竹富島地域自然資産運営協議会
12月12日	【財団】第6回定例理事会
12月14日	「星のや」にて「うつぐみチケット」の販売開始
12月21日	【財団】臨時理事会
12月25日	かりゆし館にて「うつぐみチケット」の手売り販売開始 (一過的な手売り販売から可能な限り毎日行う体制に変更) 安栄観光フェリー入島料3ヶ国語チラシの設置
12月28日	財団ホームページ英語版の公開
20年1月5日	新返礼品製作(長命草の種)
1月6日	石垣東港券売機用案内板設置
1月7日	小値賀町議表敬訪問、北海道大学西山研究室訪問
1月9日	【財団】常務理事会
1月13日	【財団】第7回定例理事会
1月16日	星のや従業員用入島料解説映像撮影
1月22日	財団の会計監査を実施
1月28日	日立市議会視察対応
2月7日	八重山MaaS協議会
	【財団】臨時理事会
2月10日	竹富港桟橋に「うつぐみチケット横断幕」設置
2月12日	【財団】第8回定例理事会
2月27日	第3回竹富島地域自然資産運営協議会・勉強会
3月5日～6日	日本環境設計株式会社による海洋プラスチックに関する勉強会
3月12日	【財団】第9回定例理事会
3月19日	財団の会計監査を実施

竹富島地域自然資産地域計画概要

目的

1. 亜熱帯の自然と島民の暮らしが育んだ竹富島の貴重な生態系と農村集落景観を保全・再生します。
2. 目的1を達成するための調査研究、技術の継承、人材育成を推進するとともに、必要な協力体制と財源を確保します。

事業内容

① 生態系と農村集落景観の保全・再生事業

- ◆ 島民の暮らしによる自然利用（生活、農業、文化等）の継承・復活事業
 - ◇ 植生維持・再生 ◇ 耕作地再生 ◇ 水辺再生 ◇ 景観維持・美化
 - ◇ 海域再利用 ◇ 自主利用ルール制定・実施
- ◆ 外来生物駆除・島の暮らしと関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業
 - ◇ 外来生物駆除 ◇ 植生再生

② 調査研究、技術継承・人材育成、協力体制構築事業

- ◆ 調査研究、モニタリング事業
 - ◇ 陸域生態系の調査研究 ◇ 海域・海岸生態系の調査研究
 - ◇ 島材の利活用方法の調査研究 ◇ 地域自然環境保全等事業の効果検証
- ◆ 技術継承・担い手育成事業
 - ◇ 自然環境保全活動技術継承・リーダー育成
 - ◇ 島材活用技術継承・リーダー育成 ◇ 島の自然と文化伝承者育成
- ◆ 周知・広報事業
 - ◇ 広報誌発行 ◇ ホームページによる周知・広報
 - ◇ 注意・案内板の設置 ◇ 協力要請・島内案内ホスター・チラシ等の発行

Action

島民の暮らしによる自然利用
(生活、農業、文化等) の継承・復活事業

植生維持・再生

防風林の植林

環境変化や経年劣化。行政サポートや住民意識の低下により御嶽の森や防風林の植林が減少し、まちなみの輪郭部を形成する防風林植林が急務であることからNPOたきどうんが所有していたフクギの苗を譲り受け、植樹を行った。

入島料収受開始セレモニーでは竹富町長をはじめとして、竹富公民館長、竹富教育長、財団理事長の4人に竹富東港のすぐそば、竹富公民館所有地に植樹していただいた。

また12月には、竹富島にいる水牛が作った天然肥料の3つをブレンドした土を使って竹富島の集落をグルリと1周する外周道路沿い約500mに、フクギの苗31本を植え付けしました。



耕作地再生

耕作放棄地の再生

竹富島には耕作が行われなくなり放置された農地が多くある。全国的に耕作放棄地の増加による景観の悪化や生態系への影響、伝統農法の消失が問題視されている。さらに竹富島では祭祀に関わる供物が島内で生産できなくなってきたことなどが懸念されており、この状況を打破するため活動を開始した。

初年度の今年は島の古老に習いながら、畑で種を蒔く際に行われる願い（種下ろしの願い）を行うところからスタートし、祭祀でも使用される「島ニンニク」や「粟」「芋」「麦」の種まきを行い、定期的な除草作業を行いながら、古老から温暖な島の気候ならではの育て方や、土の作り方、植え付けの間隔など多くのまなびを頂いている。話を聞きながら実際に作業をすることで、財団に知識という財産も培われている。



Action

水辺再生

井戸の現状調査

竹富島には歴史を物語る多くのカーサー（井戸）がある。しかし現状、木の枝や雑草が伸び荒れています上に、壊れたポンプ、サンカ（縁）、コンクリの床、落下防止の蓋などが劣化して見苦しい状態になっているところも多く見られる。

そこで、まずはカーサーの現状調査を開始した。竹富島のカーサーは、島の生活を長年にわたって支えてきた命の源。それは人間にとってだけでなく、島に住んでいる生き物も育んできた。鳥や昆虫、動物など様々な命をつなぐカーサーはすでに竹富島の自然に組み込まれている。水道が引かれ、活発な利用を終えたカーサーだが、竹富島の自然を守るためにまだ頑張ってもらわなければならない。劣化箇所を補修するなどして、いまの形のままで保存することを目的とし調査が終わり次第、補修と定期的なメンテナンスを行っていく。



景観維持・美化

海浜清掃

竹富島はあいのた・いんのた・仲筋と3つの集落に分かれている。それぞれの集落が担当する海浜エリアがあり、定期的な清掃作業を行うことで美しい海辺の景観が保たれている。しかし、どこの集落も清掃担当になっていないエリアがあり、多くの漂着ゴミがたまっている。

多くの観光客が足を踏み入れる場所ではないが、竹富島にとって大切な場所である。財団として海岸清掃を定期的に行うことで、今までゴミがたまる一方だったこの場所の景観保持や管理を行うため、初年度の今年は海浜調査と次年度に向けた計画を行った。さらに、漂着ゴミの分別調査をおこなうことで、島内外への周知を図り、ゴミの削減に向けて活動していく計画。また、台風後は竹富公民館と連携しゴミの多い海浜の清掃作業を行った。



Action

景観維持・美化

ゴミ問題の解決

竹富島ではゴミ処理施設の対応能力オーバーという問題から、ほとんどゴミ箱の設置がない。これまで来島者の方々へはゴミの持ち帰りを推奨していたが、ポイ捨てが散見される上に、親切心でゴミを拾った方が捨てる場所もないという問題点もあった。

今回、財団の活動を始めるに至り、入島料を支払っていただいた方達にいかに還元できるかを考え、出てきたひとつの案がゴミ箱の設置だった。環境保全、そして財団の活動に協力していただけた方達へのお礼。わかりやすい2つの意味を持った記念すべき活動のスタートとした。しかし、竹富島自体のゴミ処理能力が上がったわけではない上、ゴミ箱を置いたことによるゴミの分別ルールに関する問題もあり次年度以降の課題となった。



ゴミ箱に設置された表示サイン

竹富島
入島料
ゴミ箱

このゴミ箱は、あなたの支払った入島料で維持管理されています
This trash can is maintained by your entrance fee
在您购入入岛券后，我们会将所得收入用于维护管理这个垃圾箱

ゴミ箱に設置された多言語サイン

技術継承・担い手育成事業

島材活用技術継承

伝統的建築技術の継承

竹富島の集落は国から伝統的建造物群保存地区に選定されており、古くからの沖縄の美しさを守っている。しかし、そのまちなみを形成する家屋は独特の伝統的建築技術で建てられている。しかし今、その伝統的建築技術の継承者が不足しており、島での大きな問題となっている。そこで、前頁に記載したゴミ箱を組み立てる際、組み木と茅葺き屋根を部分的に採用し、若者を集めワークショップ形式で島のお年寄りからユツツル（野地竹）編みや茅葺きなど伝統的な建築技術を教わりながら手作業にて制作することで技術の継承を図った。



Public Relations

財団立上げ初年度の広報事業は多岐にわたる内容となりました。

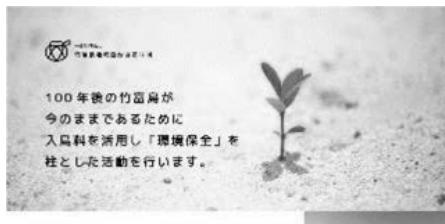
島内外へ向けた入島料周知のためのPRや財団活動報告など
次年度も更なる周知拡大に向けての広報を行ってまいります。

広報事業

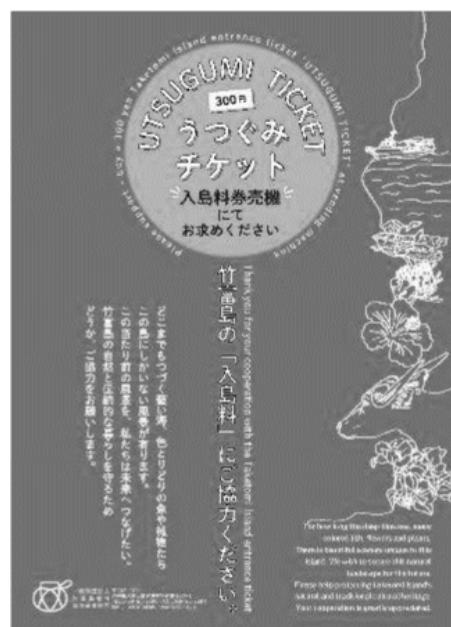
ポスター (A2)



概要版 (2019.08~)



詳細版 (2019.08~)



概要版 (2020.03~)

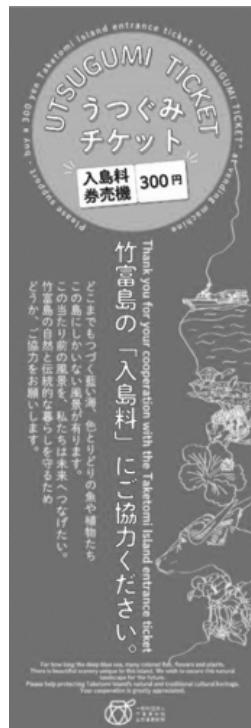
Public Relations

のぼり旗



一般財団法人
竹富島環境
自然資源財团

(2019.09月～)

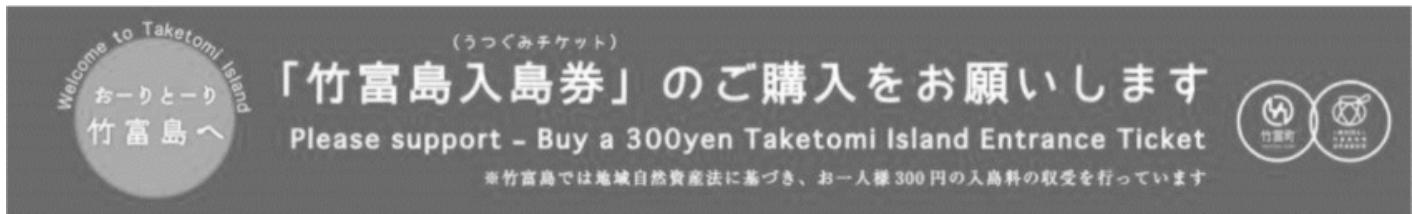


(2020.03月～)

横断幕



(2019.09月～)



(2020.03月～)

Public Relations

島内季刊紙（B4）

06 9月期入島料収受実績

収受開始1ヶ月間の入島料合計額は￥1,053,500 (3,445名)となりました。収受率としては10%強と考えられています。収受率UPのため、ご協力をよろしくお願いします。

月	期間	料金 (円)	人数 (名)
9月	9月1日～9月30日	1,053,500	3,445
10月	10月1日～10月31日	1,053,500	3,445
11月	11月1日～11月30日	1,053,500	3,445

御礼

入島料の還礼品としてお渡ししている「樂ましおり」の発送に携わっていただいた多くの皆様ありがとうございました。

また誕生日製作、感謝してくださいました。

松竹兄弟屋、大山ミツメ様、森村由美子様、高野弘子様、田中愛子様
鬼子母姑様、森井美穂様、鈴木バチャ様、野村まさ様、伊藤未樹
作賀島人会の皆様、日々や竹富島の皆様
この機会借りて御礼を申し上げます。

理事長 上野 順

〒960-1101
竹富島地域自然資源財團
TEL:0960-81-2800 FAX:0960-81-2801
MAIL:info@taketomijima.or.jp

竹富島地域自然資源財團 東洋館
てーどうん JOURNAL
2019 Oct. Vol.06



01 入島料収受開始

令和元年9月1日。全国初の生態自然資源法に基づく入島料の收受が竹富島で始まりました。それに伴い、ユーグレナ石富港島ターミナルで入島料収受開始セレモニーがおこなわれました。セレモニーには行政町長、竹富公民議員、竹富議事堂議員はじめ、多くの島民に参加していただきました。セレモニー終了後、伊藤密さんは島外を離島し竹富島へ移動。竹富島ではさりげなく島民が歌と踊りで歓待された人々を数えました。多くの観光客とともに、浮城は、竹富島特有の恵まれた島としておられました。その後、町長たちには財団の活動の一環である幼稚園の再開準備として、フワジの新築を実施していただきました。



竹富島でのお盆にご協力いただいた皆様！ありがとうございます！

02 前原基男写真展

入島料収受開始を記念し9月1日～10月3日の期間中、ユーグレナ石富港島ターミナルで前原基男写真展「100年も残したい竹富島の暮らし」を開催。豊多くの観光客や島民が写真パネルの前に足を止めて、貴重の想いを語り合っていました。



(2019.10月発行)

03 ゴミ箱の設置

財団の初めての環境保全活動となるゴミ箱の制作と設置を行いました。伝統的な縫合本と茅葺き屋根を部分的に使用したゴミ箱で、板付駄駄さんで數々に取り組んで手作りで設置されました。



04 台風清掃（コンドトイ浜）

台風10号後のコンドトイ浜の清掃を行いました。あまりひどい状況に立派な回収を決定。財団としてはお手伝いしレベルの仕事ができませんでしたが、トンボ6袋分のゴミを回収しました。



05 入島料チケット ネーミング募集中

入島料収受開始にあたりスタートしたチケット名募集キャンペーン。多くの応募をいたしましたが、まだまだ多くの応募をお待ちしております。成約されるごとに貰用作のアンクルや五音圖の大文字など豪華なプレゼントも。財団HPよりあなたが考える竹富島にふさわしいチケット名をご応募ください！

[詳細HP]
<https://taketomijima.kinawas.jp>

竹富島 財団



06 10～12月期入島料収受実績

2019年10月期～3ヶ月間の入島料収受実績は下記のようになります。
(10月期: 3,428名 / 11月期: 4,448名 / 12月期: 3,191名)
今後とも収受率 UP のため、ご協力をよろしくお願いします。

月	期間	料金 (円)	人数 (名)
10月	10月1日～10月31日	1,534	3,428
11月	11月1日～11月30日	1,894	4,448
12月	12月1日～12月31日	2,910	3,191

お知らせ

入島料収受開始の2019年9月1日より行っていた入島料のネーミング募集ですが、正なる審査の結果、「のんびり島」と「さがいまさゆき」がからに認めたいただきました。どうぞお喜びください。

このチケットを購入していただく事で人と人の繋がりや支えあい、そして島の自然に対する感謝や尊重を感じて顶け、竹富島が何はどうあるべきなのか?を考ええてもらおうきっかけになれば幸いです。

理事長 上野 順

〒960-1101
竹富島地域自然資源財團
TEL:0960-81-2800 FAX:0960-81-2801
MAIL:info@taketomijima.or.jp

竹富島地域自然資源財團 東洋館
てーどうん JOURNAL
2020 Jan. Vol.01



01 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。筆やかな季の年を迎えるにあたり、皆様方にかかるまして御歳やお歳ことお喜び申し上げます。

新年は、これから竹富島で振り舞がれるであろう年の一歩となりました。決算白書提出がござく入島料の印を開始し、島の未来を次世代へ継承するため新入島料の一般利用法人と漁業連絡会議議定を設立しました。初年度はまずは形づくりです。これからは島民の方の意識に対する想いを実現化し、形にシムグルを注いでまいります。新年明け、本年も改めて感謝する一年になりますか。多くの皆様からのご支援やご能力を確りりながら、ひとつ一つができます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

令和元年1月
理事長 上野 順



02 耕作放棄地の再生

耕作放棄地の再生プロジェクトが開始しました。まずは竹富島の農業スタイルを学び、西本郷一さんと手ほどきを受けながら、ビンの植え付けなどを実行します。渠の整備、土砂の作り方から植え付けの間隔など劉はながら実際に作業を行うことで、農業の技術の力して育てており、今後の再生プロジェクト継続に繋げていきます。



(2020.1月発行)

03 海浜清掃（調査）

3集落で沿岸区分のないカジイジ～カンナ～ゾマまでの海岸清掃を行ったが、運営ゴミの確認に難度が高かったが、特に第3耕工リの海岸に漂着以上のゴミが詰まつたり今後、事業者や住民の協力などご協力いただき清掃計画を進めてまいります。



04 防風林の植樹

種子をグリルで焼するがんじゅ器の一部、西本郷に植した海岸林は約500mに、防風林として活用できるよう4種類の樹31本を植樹を行いました。プロジェクトは実行委員会と主導者個人からNPOのたきだらんへ寄贈されたものを使用させていただきました。



05 インバウンド対応強化

年々増加する外国人観光客にも分かりやすいよう財団HPの英訳版を完備しました。今は英語ですが、今年度中の翻訳版公開を目指しています。（HOHOをより入れます。）また安価な光のエネルギーにより光電池の発電ボックスに入島料に関する3ヶ国語リフレットを設置させていただきました。



Public Relations

J T A 機内誌（3・4月号）

竹富島
日本初。地域自然資産法による入島料収受開始。

懐かしい未来が始まります。

美しい自然の町並み、自然のままに残り込まれた伝統工芸や祭礼。竹富島の風景はどれも私たちの暮らしの中にはあります。その風景に基づかれた観光案が認められました。ところが…、「昔は貴重だったけど、豊かだったなあ」島の人はおもひつぶやきました。絶景や豊かな人にまわり、白砂青松やスモウ畑、熱の大空化、併みなく動き続ける観光システム。来島者にとって島は便利になりました。その一方で島が壊される心配やこのままの問題、島が望まない開拓、それらの対応など、既存にとどく島が豊かさを失うことは見えなくなってしまいました。島の保護者が教えてくれた過去と現在における多くの人が島だと感じる感覚を守りたい。10年、20年、100年後も竹富島の風景がそのままいられるように。

私たち、入島料はじめました。

近隣林（ツクゴ）水耕栽培
八汐港の古民家
伝統工法で作られた丁石の壁
古色に富むながら新規商業施設の両生

入島料にご協力ください

島は石垣港のターミナルから竹富港の入り口の券売機にて。「うつみチケット」を手に入ったら是非かきむしのカウンターにお越しくださいね。記念品、もしくは島のおじいやおばあちゃん手作りした草編物（数量限定）をプレゼントしています。

LINE 友達登録のイベントや誕生日（誕生日）
誕生日おめでたしが選べます。
友だち登録中 これまでの内容を確認します。

島のイベントや誕生日（誕生日）
誕生日おめでたしが選べます。
友だち登録中 これまでの内容を確認します。

石垣港と竹富港に
設置された券売機
島をとして
記念品や卓球場
(数量限定)をプレゼント

入島料はこんなことに活用されます

上記 様々な島の入島料は、竹富島の保護活動に使われます。西岸 清掃、防風林の植林、ゴミ回収の他、新規商業施設の開発など様々な活動を行うことで、自然全体で潤していた島の歴史時代を蘇らせるなどを目標にしています。また、入島料の1/3以下はトラスト活動（土地の保有・運営）に充てています。何年かかるかわかりませんが、今始めなければならぬと思っています。目の前の小さな島からではなく、が、一体、また一歩と進んでいます。「懐かしい未来」に向かって。

（2020.03月～）

ホームページ（<https://taketomijima.okinawa/>）

100年後の竹富島が
今まであるために
「環境保全」を中心とした
活動を行います。

▶ HOME ▶ 入島料について ▶ 活動紹介 ▶ 訪問について ▶ 寄付について ▶ 法律合せ ▶ English

「竹富島」

竹富島は、沖縄の原風景が色濃く残る集落に美しいビーチが魅力の周囲9.2km、人口わずか350名程度の小さな島に年間約50万人もの観光客が訪れており、島では古事、オバーユースや観光業者など多くの問題に悩まされています。そこで私たちは、これらの問題を解決にむけ、2019年5月一般財団法人竹富島扶助会が発足いたしました。

お知らせ

2020年04月01日	レポート	最新レポートを読む
2020年03月01日	レポート	年度レポートを読む
2020年02月01日	レポート	活動レポートを読む
2020年01月31日	会員登録	会員登録登録
2020年01月01日	お問い合わせ	お問い合わせでトランザクション

入島料について 活動紹介 訪問について 寄付について 法律合せ English

100年後の竹富島が
今まであるために
「環境保全」を中心とした
活動を行います。

MENU

「竹富島」

竹富島は、沖縄の原風景が色濃く残る集落に美しいビーチが魅力の周囲9.2km、人口わずか350名程度の小さな島に年間約50万人もの観光客が訪れて

（P C 版）

（モバイル版）

Public Relations

財團事業案内

(2020.02月～)

Public Relations

うつぐみチケット（入島券）



石垣港 / 竹富港券売機用
(58*40)



種子取祭会場手売り販売用
(91*55)



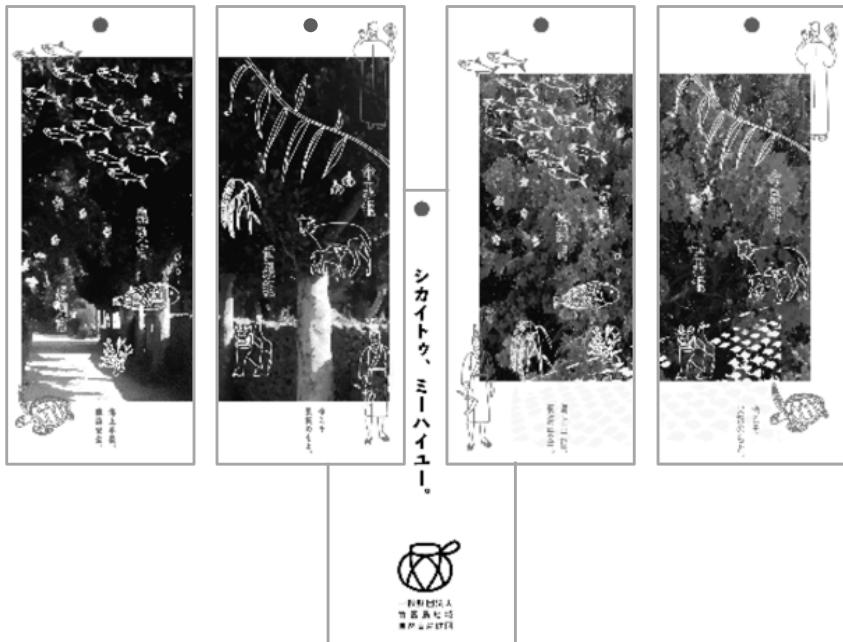
財団 / 事業者手売り販売用
(91*55)

Public Relations

返礼品

染糸しおり

(2019.09~2020.01)



竹富島のタネ - 長命草

(2019.12~)



長命草（ボタンボウフウ）

長命草（ちょうめいそう）とは、セリ科の常緑多年草で、沖縄県では「1枚食べると1日長生きする」と言われる栄養豊富な植物です。竹富島では刺身のつまや天ぷら、和え物等で食べられています。種子は出来るだけ暖かい時期に撒いてください。

竹富島方言ステッカー

(2020.01~)



草玩具

(2019.09~)



この他にも島民の皆様から
多数の返礼品を頂いております

About Us

組織概要

名称

一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

設立

2019年5月30日

所在地

〒907-1101

沖縄県八重山郡竹富町竹富207-1

目的

この法人は、『竹富島憲章』を遵守し、竹富島地域自然資産保全区域における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進のために活動し、島民の心身の健全な発達及び自然環境と文化の保全に寄与し、地域社会へ貢献することを目的とする。

役員

※50音順

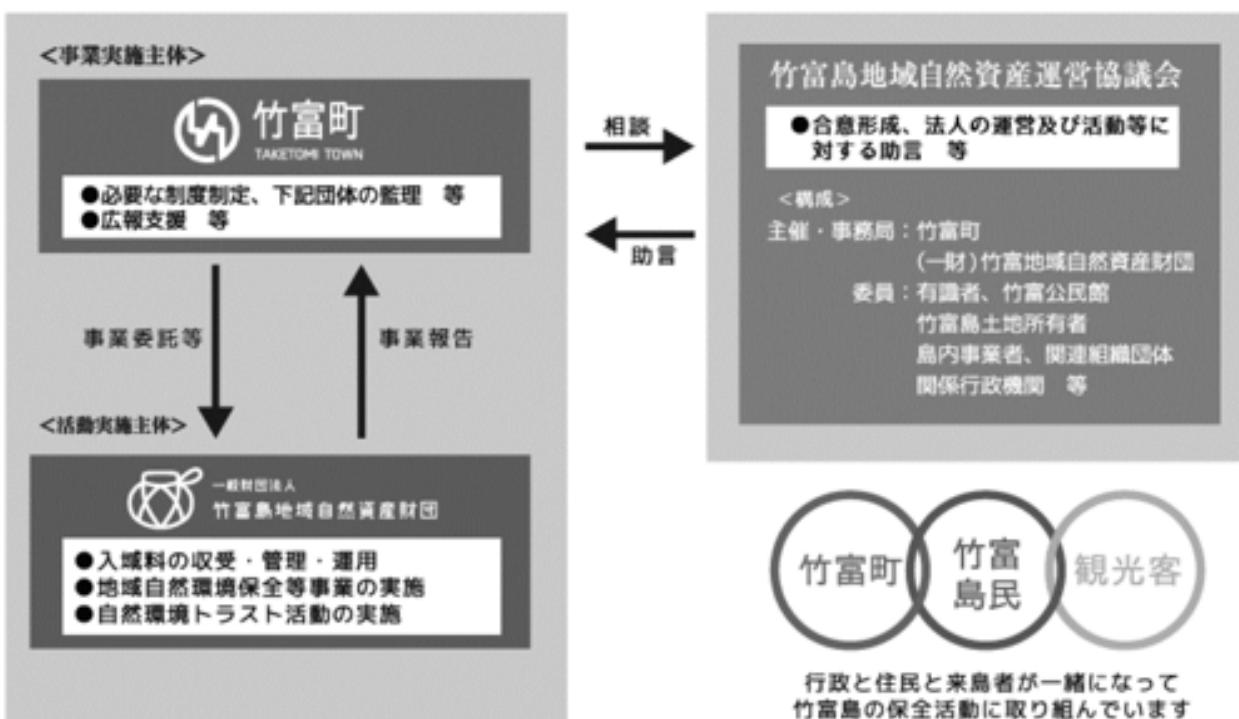
●理事長：上勢頭 篤

●常務理事：市瀬 健治／水野 景敬

●理事：井上 寛文／上勢頭 輝／上勢頭 巧
上勢頭立人／内盛 薫／内盛 正亀
前本由貴子

●評議員：内盛 正聖／内盛 良枝／大山 繁一
島仲 彌喜／野原 健

●監事：阿佐伊 拓／大政司



Donation

竹富島では、そんな遠くない昔。

あまり便利とは言えないけど、自然体で暮

らせるこころ豊かな時代がありました。

島の中で祖先より長い時間をかけて受け継
がれ育くまれてきた環境。自然の中に織り込
まれた伝統工芸や祭祀、そして美しい町並み
など、他にはない竹富島の環境を守るためご
支援をよろしくお願ひします。

竹富島の環境保全活動のために 寄付をお願いします

寄付の方法

下記申し込みフォームまたは、寄付申込書でお申し込み後、当財団指定の銀行までお振込をお願いいたします

寄付申し込みフォーム

<https://taketomijima.okinawa/dons/donsform>

FAXまたは郵送での申し込み

<https://taketomijima.okinawa/wp/media/format.pdf>

お支払い方法

銀行名 琉球銀行 支店名 [店番号] 八重山支店 [703]

口座種別／口座番号 普通預金／1020723

口座名義

ザイ)タケトミジマチャイキシゼンシサンザイダン
一般財団法人 竹富島地域自然資産財団



一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団

ANNUAL REPORT

2019年度
年次報告書